

# 教育研究所だより

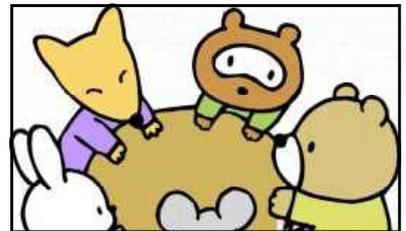
宮古島市立教育研究所  
 指導主事 砂川 睦紀  
 宮古島市平良字西里1140  
 TEL 73-1104

今回は、教育研究所だより第5号「関連事業のお知らせ」にありました『宮古島ラウンドテーブル』についてお伝えします。まずは、**ラウンドテーブルとは…**

4～5人ずつの小グループでテーブルを囲みながら、自分の実践を持ち寄り傾聴し、語り合う場です。参加者が自身の活動を**省察**すると同時に**他者の実践を丁寧に聞き取る**という交流の中で、これまでの固定観念や役割・常識から離れて新たな可能性を探っていく営みです。校種や職種、立場の違いを超え、気づきや学びを互いに提供する対話によって、認識を深めていくことを目的としています。

～ラウンドテーブル チラシより抜粋～

ラウンドテーブルについて、私自身は参加したことも、その様子を見たこともありません。そのため、上記の文面においてラウンドテーブルを想像したときに他県の先生方の実践に触れ自分自身の気づきや学びの広がりを見るとワクワクした気持ちになる反面…自分の実践を語ることにハードルの高さを感じずにはいられませんでした。実行委員として参画し、他県の先生方と話し合う中で安心感も多くなりました。



このラウンドテーブルは8月4日（水）に開催されます。福井大学教職大学院の院生（現職の先生方など）が来島され、宮古島の先生方との交流を目的としたラウンドテーブルが企画されています。現在、宮古島ラウンドテーブルの実行委員として下地美和子教頭（狩俣小：院生）、上里公人教諭（多良間中：院生）と県外の院生の先生方とテーマや内容についての準備を行っています。今回は、実行委員会での話し合いの内容を私がメモした範囲ではありますが、先生方のコメントを紹介します。県外の先生方がどんな思いで宮古島ラウンドテーブルに参加したいと考えているのかをお伝えできたらと思います。以下、実行委員会でのコメント一部です↓

○ざっくばらんに情報交換ができたかどうか。  
 ○普段こだわって取り組んでいることや宮古島ならではの教育について聞きたい。

○どこの地方の先生も悩みがあって、それが共通の悩みだったりすると思う。

○（東京のこどもたち）自己肯定感が低いという課題がある。何で同じことが起こっているのか。宮古島の先生方と語り合うことでさぐってほしいな。

○目の前にいる子供たちと宮古島の子供たちの共通点や違う点があると思う。そういうことを聞いて語ってみたい。

○宮古島で地域と協働しているような実践やこどもが主役の取り組みなど聞いてみたい。幼稚園の先生方も参加してくれたらいいな。（幼稚園教諭）

○子どものことを中心に話して、（教師としての）自分の価値を再発見できるようなラウンドテーブルができたらいいな。



実行委員会に参加して毎回感じることは、宮古島の先生方が参加しやすいラウンドテーブルにするにはどうしたらいいのかを最優先に考えていること、県外の先生方が宮古島の先生方とつながりができることを楽しみにしていることがとても伝わってきます。今回のラウンドテーブルへの参加申込等についてのお知らせは、明日7月1日（木）配布致します。多くの先生方の参加をお待ちしています。